

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670200429
法人名	医療法人 同潤会
事業所名	自立の家
訪問調査日	平成 20年 8月 2日
評価確定日	平成 20年 9月 4日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670200429
法人名	医療法人 同潤会
事業所名	自立の家
所在地	薩摩川内市大小路町54番8号 (電話) 0996-22-8611
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成 20年 8月 2日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	7 人
利用定員数計	9 人
常勤	7人, 非常勤 人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780 円	

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	78 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	永井病院 時吉歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

一見すると一般住宅のような趣があるホームは、住宅地の中に母体病院や関連施設(介護老人保健施設・在宅介護支援センター・訪問介護事業所)とともに建てられている。このような立地のもと、病院を中心とした連携が密に図られており、特に医療面のケアが充実している。関連施設経由で入居に至る方も多く、入居後も行き来があり、多機能的な支援がなされている。また、介護・看護技術、感染症対策、安全管理、救急法、接遇など法人としての研修体制が充実しており、質の高い介護サービスが提供されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	●運営に関する家族等意見の反映→ホーム単独の家族会を発足し、ご家族の意見を聞く機会を増やしている。●同業者との交流を通じた交流→地域の「認知症を考える会」に参加する他、新たに発足した地区グループホーム連絡協議会に加入し、勉強会への参加や他施設との情報交換を行っている。●災害対策→消防署の指導の下、近隣の方も参加する避難訓練を実施している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	評価の意義や目的を管理者が職員に伝え、ミーティングの時間を利用して職員全員で自己評価を実施している。指摘された事項についてはミーティングにおいて全員で検討し、改善に向けて具体的に取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は2ヶ月毎に開催している。会議には自治会長、老人会長、市国保介護課職員、医師、ご家族など、様々な立場の方が参加している。昨年の外部評価で指摘された災害対策等に関して運営推進会議で話し合い、近隣の方々も参加した避難訓練が実現するなど、サービス向上に活かされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	ご家族の面会の都度、気軽に話せるように配慮する他、昨年より家族会を発足し、年3回の開催を計画している。運営推進会議や家族会、市の窓口などで相談が可能なことも随時説明している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、老人会の清掃活動や廃品回収などの地域行事に参加している。今年度は自治会長が交替して女性の会長となったことから、婦人会活動を通じて、今後更に地元との交流を深めていく予定である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の中での生活に加え、地域の人たちとの交流をふまえた事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の唱和を行ったり、ミーティングで話題にするなどして、管理者と職員が理念を共有している。また、日々のケアにおいても「その人らしさ」「尊厳」「自由」「笑顔」を大切にし、お互いに足りない部分を注意しながら理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、老人会の清掃活動や廃品回収などの地域行事に参加している。今年度は自治会長が交替して女性の会長となったことから、婦人会活動を通じて、今後更に地元との交流を深めていく予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を管理者が職員に伝え、ミーティングの時間を利用して職員全員で自己評価を実施している。指摘された事項についてはミーティングにおいて全員で検討し、改善に向けて具体的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催している。会議には自治会長、老人会長、市国保介護課職員、医師、ご家族など、様々な立場の方が参加している。昨年の外部評価で指摘された災害対策等に関して運営推進会議で話し合い、近隣の方々も参加した避難訓練が実現するなど、サービス向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	国保介護課の職員以外に、入居者の生活保護に関する相談等で援護課の職員が事業所を訪れるなど、日々お互いに行き来して、サービスの質向上のために連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月毎に発行する「自立の家だより」に加え、電話や面会の際に、随時、入居者の暮らしぶりや健康状態、職員の異動等を伝えている。また、金銭管理については出納帳をお見せして説明の上、確認のサインをいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会の都度、気軽に話せるように配慮する他、昨年より家族会を発足し、年3回の開催を計画している。運営推進会議や家族会、市の窓口などで相談が可能なことも随時説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑えるよう配慮しているが、やむを得ず職員の異動等がある場合、新しい職員に対しては認知症に対する理解を深めるための研修を実施するなどダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に基づき、介護・看護技術、感染症対策、安全管理、救急法、接遇などについて、毎月第二水曜日に法人全体を対象とした研修会が開催されている。その時々テーマに応じて対象者を人選し、交替で参加している。研修後は、ホームのミーティング等を利用して伝達研修を実施している。		職員の更なる資質向上のために、その経験や立場、習熟度等の段階に応じた育成計画作成を検討していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県及び出水川薩地区グループホーム連絡協議会に加入しており、研修会等を通じて他施設等との交流や情報交換を行っている。また、薩摩川内市介護保険サービス提供事業者連絡会にも参加しており、年3～4回職員が交替で勉強会等に参加している。		他グループホームと協議し、職員の相互訪問等についても今後検討していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同一法人内の他施設から入居する方も多く、比較的事前に馴染みの関係がつくりやすく、安心、納得してサービスを開始している。その他の場合は、事前に見学していただいたり、管理者や職員が自宅や施設に何回か足を運び、徐々に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	農業を経験してきた入居者が大半であり、肥やし方や苗の植え方などを教えていただきながら、ナスやトマト、ニガゴリなど、それぞれに入居者の名前を入れて成長を楽しみながら育てている。その他、料理の仕方を教わるなど、支えあいながら共に過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、入居者一人ひとりの思いや希望に耳を傾け十分話し合っって対応している。また、自分の思いを話さない方に対しても、表情や行動の変化から判断し、本人本位に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者本人やご家族と、十分な話し合いを行っている。また、日頃入居者と大半の時間を過ごす職員からも、朝夕のミーティング等で色々な情報が寄せられ、それらを反映して入居者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態は比較的安定しており、基本的に介護計画の期間は1年としている。3ヶ月毎に定期的な見直しを行っているが、日々の入居者の状態は朝夕のミーティングで職員から報告され、必要があれば現状に即した新たな介護計画を作成するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人の介護老人保健施設の行事に参加したり、母体病院による定期的な健康管理など、多機能性を活かした支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院が近いことから、入居の際にかかりつけ医を変更する入居者が大半で、現在も全ての入居者が母体病院をかかりつけ医としている。処方のための診察(毎週)、定期的な診察(毎月)など、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期を迎えた場合の対応は、入居の際や病状変化の際、随時本人やご家族等並びにかかりつけ医と話し合い、常に全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「尊厳」や「自由」、「その人らしさ」をケアの基本として対応しており、常に入居者それぞれの誇りやプライバシーに配慮している。記録類をはじめとする個人情報の取り扱いについては、規定に基づき適切に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての一日の流れはあるが、あくまでも生活のリズムづくりの目安に過ぎず、入居者のペースや体調、気分や希望にそって支援に心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は基本的に業者に委託しているが、献立の要望を入居者に募り業者に伝えたり、ホームでできるものは、食材の下ごしらえ等を含めて入居者に手伝っていただきながら調理している。可能な方には配膳や下膳など一緒に行い、楽しい食事になるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯など、入居者の希望に合わせて入浴できるように支援している。希望があれば毎日の入浴も可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居の際、本人やご家族に生活歴や趣味を聞き、それぞれに張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。畑仕事をしておられた方が多く、季節の野菜をそれぞれの名札をつけて手入れしたり、編み物、裁縫(雑巾縫い・お手玉づくり)、洗濯物たたみなどそれぞれ得意なことを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を肌で感じてもらったり気晴らしのためなど、ホームの中だけで過ごさずに、それぞれの希望、気分や体調に配慮しながら日常的に戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い入居者も居られるが、ご家族と協力しながら面会や外出の機会をつくり、また、散歩に出かけるなどの配慮をして、日中鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を実施している。また、同一法人の関連施設も近隣に集中しており、いざという時の協力体制も確立している。運営推進会議において地域の人々の協力を働きかけた結果、近隣の方々も参加されての避難訓練が実現している。現在、夜間想定訓練を検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した献立を栄養士が作成している。食事や水分量に関しては健康記録に記入しており、必要量が確保できるよう適切に支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂には季節の花を飾り、壁の貼り絵とともに季節を感じられるように配慮している。また、台所や浴室の入り口には暖簾をかけるなど、生活感を取り入れて入居者が居心地よく過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際ご家族と相談しながら、使い慣れた品物や好みものを持ってきていただくように勧め、鏡台やダンス、椅子やアルバムなどが持ち込まれている。		